

10年を振り返って

教育学研究科長・教育学部長
杉山 久仁子

「教育デザイン研究」第10号の刊行に際し、ご挨拶させていただきます。

第10号では、21の投稿論文と2件の調査報告、院生の研究発表の要旨等を掲載することができました。本誌は創刊号から全ての記事を横浜国立大学学術情報リポジトリで閲覧していただくことができます。創刊からの10年を振り返ってみましょう。

この10年間にはいろいろなことがありました。2008年度に専門職大学院として教職大学院がスタートしました（当時19校）。本学においては教育学研究科の在り方の問い直しと、学部カリキュラムの改定に関する検討が進められる中、教育デザイン研究会が発足し、2009年度に「教育デザイン研究」創刊号が刊行されました。2011年度には教育学研究科の教科領域別の専攻を廃止し、教職大学院ではなく「教育デザイン」をコア科目とした教育実践専攻1専攻に改組しました。2013年度からは本誌の発行元は教育学研究科となりました。同年には各国立大学の強み・特徴・社会的役割を示す「ミッションの再定義」が行われ、教員養成分野では「今後の人口動態・教員採用需要等を踏まえ量的縮小を図りつつ、初等中等教育を担う教員の質の向上のため機能強化を図る」ことが求められ、本学は県内の教育委員会との密接な連携により、地域の教員養成・現職研修の中核的機能を担うことを目的とすることが確認されました。2015年度には、「教育デザイン研究」の投稿要領を改訂し、投稿論文は査読論文になりました。2018年度からは、本学教育学研究科にも教職大学院である高度教職実践専攻を新設し2専攻となりました。同年8月末には国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議の報告書が示され、これまでの取組における課題に対してとるべき対応策が示され、各大学・学部に教員養成・研修機能の強化が求められています。この状況の中で、本学の教育学研究科においても、教職大学院の拡充、修士課程の見直しの検討を現在行っています。

この「教育デザイン研究」を創刊した当初から大学教員・附属学校教員・地域の教員が三位一体となって教育課題に取り組むことが重視されており、大切にすべきことは変わっていないと思います。今後も、教育学研究科の研究活動の推進を図りながら、神奈川県内を中心とした教員養成・研修の充実に貢献できる研究誌であることを目指していきたいと思います。今後とも、多くの皆様のご理解とご支援のほどよろしく願いいたします。